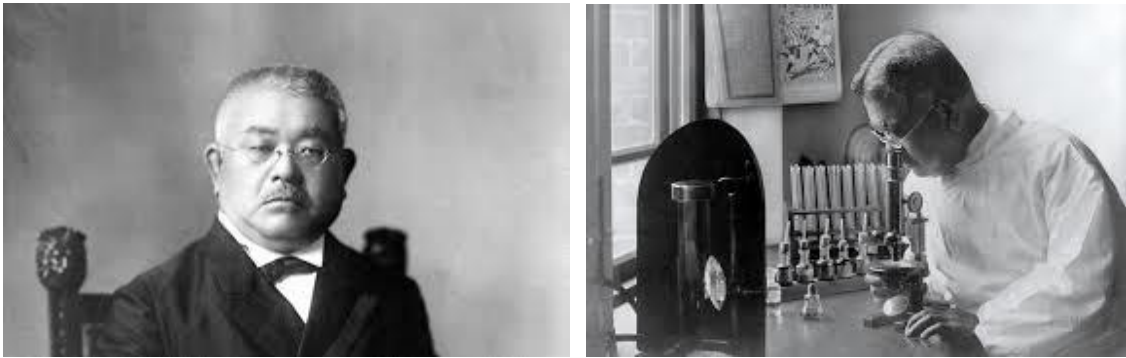


## 8月25日は、北里柴三郎がペスト菌を発見した日です !!

---



人類の歴史を通じて最も致死率の高い伝染病と恐れられたペストは、1300年代の欧州で全人口の約3分の1が死に至ったこともあり、全世界で不治の病とされていました。

1894年（明治27年）8月25日、細菌学者・北里柴三郎博士がペストの病原体であるペスト菌を発見したことで、不治の病と恐れられていたペストの治療に活路を見出しました。

また、全くの同時期にパスツール研究所の細菌学者アレクサンドル・イェルサン博士もペストの病原体を発見しました。

2人のペスト菌治療法発見の功績は、人類の救世主と称されるなど、今なお世界中で称賛され続けております。

明治政府の命により香港に渡っていた北里柴三郎は、思わず声をあげます。「**これだ、ついに発見したぞ、ペストだ**」。長年に亘（わた）り人類を苦しめ多くの命を奪ってきた、ペストの正体を暴いた瞬間だったのです。

その香港での発見から5年度、ついにペストが神戸に侵入し、大阪、さらに関東にまで感染が広がった。北里自身が制定に関わった伝染病予防法の下、さらなる感染拡大を防ぐため、自ら指揮をとり奔走します。そしてペスト伝播につながるネズミの駆除を徹底させ、終息に導いたのです。

**1926年以降は、日本国内で一度もペストの発生をみていません。**

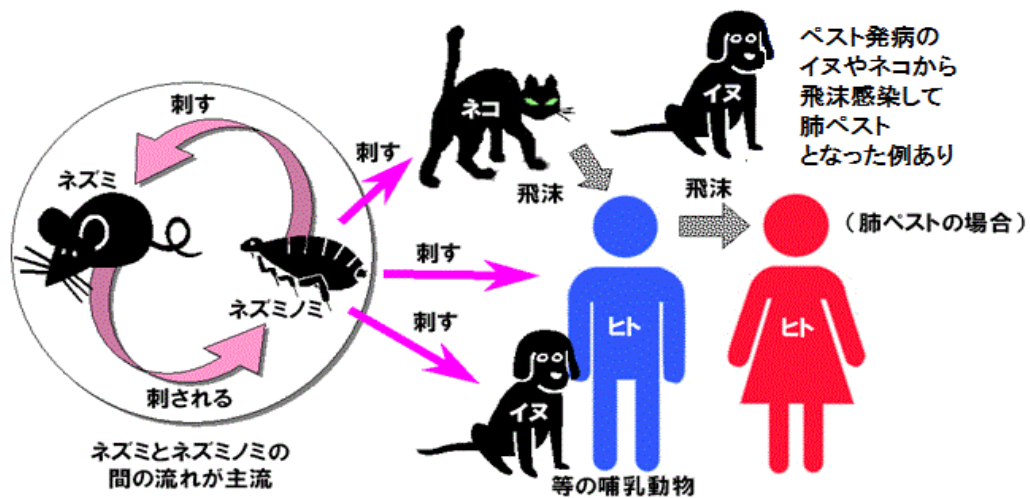


図1 ペスト菌の流れ

ペストは、歴史的には、3回の世界的大流行が発生し、多くの死者を出したことが知られています。かつて大流行が起こった地域は、エジプト（541年）、ヨーロッパ（1346年）、インド・中国（1855年）です。

特に、14世紀ヨーロッパでは、およそ2500万人、推定で5000万人が死亡したとされています。この頃は、下水道が発達していなかったことから衛生状態が悪く、ペスト菌を保有する野ネズミなどのげっ歯類が町や家などに入り込みやすい状態でした。また、このときペストは「黒死病」として恐れられました。

ペストは、動物とヒトの感染症です。

ペスト菌は、主にある種のネズミとネズミノミの間を循環しています。

ペスト菌を持っているネズミノミにかまれてペストとなる人がいます。あるいは、ペスト菌に感染している人や動物に接してペストとなる人がいます（ネコやイヌから感染した例あり）。ペスト菌を持っているノミがネコやイヌなどのペットにつくこともあります。

2022年8月25日

福岡ワンヘルス協議会・事務局